

全体講評： 問1は標準的ではあるが、問2、3、4は難しく感じた受験生も多かったと思う。ただし、各大問は細かく小問分けされているので、部分点をしっかりと取っていき全体としてまとまった点数を狙っていくようにしたい。数学Ⅲの積分法や複素数平面の出題がなかったことは少々驚きだが、対策は必須である。		試験時間	120分	
		難易変化	易化 / 昨年並 / 難化	
		分量変化	減少 / 昨年並 / 増加	
大問	区分	内容	講評	レベル
問1	数B 数II	数列と漸化式 指数・対数	漸化式は標準レベルであるから、確実に解いておきたい。(2)以降の設問は演習経験があった人も多かったと思われる。	★
問2	数III	微分法	設問の流れに沿って解けば迷うことは少ないと思われる。しかし、計算量は多めなので精度が問われるところ。計算を減らす工夫も必要になってくる。	★★
問3	数A	確率	取り出す人の順番を変えたり(確率は変わらない)うまくモデルを作るなどの工夫が大切。一歩間違うと、試験場では難問となりかねないので要注意。	★★
問4	数I	三角比	ある程度図を描いて三角比の問題と認識すれば、難しくはないが試験場では混乱しそう。難しく感じた受験生も多かったのではないだろうか。	★★
学習指針： 問題は標準～やや難で構成されている。そのレベルから少し上まで数多くの問題にあたっておきたい。また、ここ2、3年出題傾向を固定しない傾向にあるので、大変ではあるが満遍なく学習することも必要であろう。講評でもふれたが、数学Ⅲの積分や複素数平面からの出題が控えめではあるが、対策は必須。演習量は十分に確保する必要がある。		※ 難易変化、並びに分量変化は対昨年比と なっています。 ※ レベル表示は次の区分になります。 難 → ★★★ やや難 → ★★ 標準 → ★ やや易 → (無表示) 易 → (無表示)		